

会 議 録

会議の名称	令和2年度 第2回豊中市公共施設等有効活用委員会		
開催日時	令和2年（2020年）11月4日（水） 15時00分～16時20分		
開催場所	豊中市役所 第二庁舎3階 大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	都市経営部 創造改革課	傍聴者数	1人
公開しなかった理由			
出席者	委員	○公共施設等有効活用委員会委員6名 勝原小夜里委員・木多道宏委員・佐野こずえ委員・深澤俊男委員 吉村直樹委員・和田聡子委員（五十音順）	
	事務局	榎本部長・岩佐課長・橋本主幹・橋爪主事・上野主事	
	その他		
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会長の選出について 2. スケジュールについて 3. 南部地域の学校跡地活用の考え方について 4. その他 		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

審議等の概要（主な発言要旨）

発言者	内容
<開会>	
<部長挨拶>	
<成立要件の確認>	
事務局	豊中市公共施設等有効活用委員会規則第6条第2項に基づき、委員会は、委員の過半数の出席を必要としている。本日は、委員総数6名中、6名の委員の出席があり、成立要件を満たしている。
<審議会の説明、会議の公開について確認、委員紹介、事務局紹介>	
事務局	（資料1,2に基づき説明及び紹介）
<案件1. 会長の選出について>	
<p>豊中市公共施設等有効活用委員会規則第5条2項に基づき、会長を委員の互選により決定 会長・・・木多委員</p> <p>豊中市公共施設等有効活用委員会規則第5条第4項に基づき、会長職務代理者を会長の指名により決定 会長職務代理・・・和田委員</p>	
委員長	<p>（挨拶）</p> <p>小学校は、コミュニティの核になる場所である。地域コミュニティには、これまでの地域の考え方・理念が精神として宿っている。学校再編では、このコミュニティの行き場を考えることである。コミュニティには大切な考え方がある。コミュニティとコミュニティが出会うということは、それぞれの大切にしてきた考え方をお互いに理解しあって、そこからメタな考え方を生み出す。人類の法則だと思う。コミュニティは、どんどん広がっていく。一方で、原点となったこのコミュニティも大切にしていける両方が重要である。学校の再編はコミュニティの再編がその奥にあるテーマだと考えている。</p>
<案件2. スケジュールについて>	
事務局	（資料3に基づき説明）
委員長	今回は、市から諮問受けて南部地域の個別活用計画を審議する。
<案件3. 南部地域の学校跡地活用の考え方について>	
事務局	（資料4に基づき説明）
委員長	7ページに、これまでの地図があり、8ページではエリアのポテンシャルが記載されている。河川敷・グリーンスポーツセンターがあるスポーツのポテンシャルエリアは、7ページのイノベーション推進ゾーンで事業者が多いところか。
事務局	こちらについては、一部心地の良い暮らしゾーンがある。事業所も多いが、住宅も多い地域である。

発言者	内容
委員長	個人的な意見になるが、ゾーニングという言葉の考え方を整理する必要がある。以前の都市計画では、ゾーニングというと住宅と工場をきっちり分けるという考え方だった。今のゾーニングは、いろんな都市活動がお互いの良さを活かし合うことで、新しい活動が生まれてくる。ゾーンのレイヤーが重なるような感じでもいい。エリアのポテンシャルである音楽・ものづくり・スポーツ・食は、素晴らしいリソースである。エリアとしてのポテンシャルを高めつつ、各エリア同士をクロスさせたり、エリア内でも、新しいミックスを起こすなど、この両面が重要となる。
事務局	エリアのポテンシャルを示しているが、このエリア内はこれしか有り得ないということではない。例えば、豊南市場では、食というポテンシャルであるが、豊南市場内にサウンドステーションとして、グランドピアノが置かれ、食と音楽の要素がかけ合わさり、新しい魅力になっている。南部地域活性化のコンセプトにも掲げているとおりに個性豊かなまちである。この個性をしっかりと活かし、掛け合わせていくことでより魅力的なまちにできると考えている。
委員	計画の策定にあたっては、地方創生の中でも取り入れるよう政府が方針を出している SDGs の要素を取り入れることで、計画が良いものになる。押しつけにならないよう SDGs に関する出前講座などを実施し市民へ伝えていく、また一つの戦略として、未来を担う児童・生徒に学校教育の場で取り入れることで、新しいアイデアが生まれてくるかもしれない。SDGs を計画のなかに盛り込んでどうか。
事務局	SDGs は、2030 年に向けて大きなテーマである。まちの活性化に向けて、ただきれいにする、何かを排除するのではなく、誰ひとり取り残さない、お互いが違いを理解し合う寛容なまちをつくるのが大切である。南部地域活性化のコンセプトでも個性豊かだと掲げているとおりに、外国人が多く住んでいたり、事業者や音楽があったり、様々な個性がある。この個性のそれぞれの良さを認め合い、理解することが大切である。SDGs の座学をするというよりも、市民にまちの個性を伝えながら、それが SDGs の考え方につながっているような伝え方をしていきたい。
委員	8 ページのエリアのポテンシャルは、印象が良い。ゾーニングは、何らかの形でした方がよいし、一定の世代には訴求力がある。体育・図工・音楽・家庭科という名称に変換されると、子育て世代にとってはわかりやすい。この要素が揃っているまちは、なかなかない。7 ページと 8 ページの掛け合わせがあれば、よりわかりやすい。交通の利便性が良いところは、まちの価値が上がる。名神や阪神高速道路、幹線道路がしっかりしている所はアクセスが良いため、市外にもアピールできる。交通の利便性とまちの要素をしっかりと掛け合わせるとよりまちの魅力となってくるだろう。

発言者	内容
事務局	南部地域は、交通利便性の良いまちである。学校跡地となる野田小学校・第十中学校は、阪急宝塚線庄内駅から近い立地であり、島田小学校や第七中学校、庄内西小学校は、駅からは遠いが、高速道路のインターチェンジからアクセスが良く、魅力的なコンテンツがあれば、市内外から人が訪れる場所になると考えている。また、市内外から多くの方が訪れることは、南部地域に住んでいる方のシビックプライドの醸成にもつながる。さらに、学校跡地で地域の方と地域外から来た方が出会うことで、新たな価値が生まれるかもしれない。
委員	8 ページのまちの資源はオーバーラップしているのではないだろうか。ものづくりは、地域の広範囲にある。それぞれの要素が複合的に見える化できればさらに良い。
委員	コンテンツのゾーニングのところについて、各教科に紐付けられているが、体育・図工・音楽・家庭科と昔からある教科に紐付けられている。子育てをする立場として、未来永劫この教科があるのか。今の子どもたちが、大人になる頃には、現在ない職業についていることが多いといわれている。例えば、AI 技術を学べるなど、インパクトのあるコンテンツがあれば、新たな魅力となるように感じた。
事務局	教科に変換することで親しみやすさ、新たにできる小中一貫の義務教育学校と、学びという軸でつなげることができると考えた。例えば、図工といっても、3D プリンターなどの最新技術を活用したものづくりや、音楽ではライブ配信、体育では新しくオリンピックの競技にもなったスケートボードやスポーツクライミング、また e スポーツなど今後生まれてくる新しいものも取り入れることができると考えている。
委員	それぞれの教科に、情報というコンテンツをいれて、市内外に発信していくのはどうか。これから情報をどう発信するか、とりにいくかがより重要になってくる。
委員	IT は、これからの子どもには必要不可欠なものである。今まさに、おっしゃった 8 ページの記載にある 4 つのポテンシャルを IT・情報化が包含することで、イメージがしやすく、わかりやすくなる。
事務局	南部地域活性化基本計画の中でも南部地域を ICT フィールドに位置づけている。 おっしゃっていただいたとおり、全てを包み込むような形で資料のほうがわかりやすいかもしれない。

発言者	内容
委員長	<p>横浜市の港北ニュータウンの事例を紹介する。1つの学区が幹線道路で囲われている。学区の内部構造は歩行者専用空間で計画されている。公園や歩行者専用の道をつないで、人が歩きやすい線形で学区同士をつないでいる。まずは、学区内で子どもたちが安全に学校へ通いやすくなっている。さらに、学区内で文化を育むコミュニティがあり、個性を育成していく。また、コミュニティ同士がつながることを想定した道の設計になっている。日本や海外で様々なまちをみている中で、いいまちとは、単純でも複雑な構造をしていても、幹線道路で囲まれた内部構造が人間的で歩きやすい。庄内は区画整理されたところだけでなく、自然形成された路地もあり、歩いて楽しい魅力的なまちである。路地的な空間が多く、その空間だけで、エリア内を歩いていける。すごく大切なリソースだと思う。千里ニュータウン近くに住んでいるが、ニュータウンは、戸建て住宅が多く歩いていて、寂しすぎる。</p>
委員	<p>ニュータウンは、一般に坂道が多い。対して、庄内はほぼ平坦な土地である。これは、この地区の強みの一つだと思う。高齢者にも子どもにも障害者にも優しいまちであるし、もっとアピールした方が良い。</p>
委員長	<p>では、本日の意見をまとめていく。南部地域は、地区ごとに個性があって、いろいろなポテンシャルがある。それを大切にすべきである。その方向性は委員のなかでも賛成している。そのゾーニングをオーバーラップの仕方についていろいろ意見が出た。スポーツ・ものづくり・音楽・食を掛け合わせるとすごく良い。それを情報だったり、ICT だったり、AI というテーマでつなげていくことも1つのオーバーラップのアイデアである。広域的にみてもすごく利便性の高いまちである。自動車交通の面でも高速道路や幹線道路があり、公共交通の面でも都心から近く、あらゆる面でインフラが整っている。事業者にとっても、重要なポテンシャルがある。歩行者の空間も重要である。平坦で優しい空間特性を大事にすると良い。優しいというのも魅力である。全体を包含するものとして優しさもありだ。情報というのと体が不自由な方にとっては、すごく大事である。ポストコロナ社会で情報インフラの可能性を遠隔で会議をしたり、いろんな可能性を見つけている。情報空間をより意義のあるものにしていく。実空間は、実際に地域を歩き回る事で出会いがある。情報空間と実空間がうまくお互いに相乗効果を出せるまちづくりもありだと思う。SDGs を取り上げていくことは私もそれは大切なことだと思う。既に学校で SDGs を取り組まれている可能性もあるので、一度学校の方で SDGs の教育をされているかどうかというのを確認してもいいかもしれない。香川県で商店街の再開発の調査しているときに、学校の統合の話があった。学校の統合の時に地域の方が一番議論したのが総合学習をどうしようということだった。学校再編にあたって、あるところの学校は漆塗りのものづくり技術を伝えていた。また別の学校は和三盆を使った和菓子が伝統的に有名だった。それを</p>

発言者	内容
	<p>家庭科的な授業でやっていた。それぞれ総合学習に個性がある。お互いそれをどうしようかというところに熱を入れて意見された。それは各コミュニティが持っている個性だと思う。それを統合するときに新たなアイデアが生まれる。読み書きそろばん以外のお互いを理解しあえる教科、体育・図工・音楽・家庭科+SDGs、情報、各学校の総合学習を調べてみてお互いを融合させていってそこに答えがあるかもしれない。</p> <p>このエリアはすごく魅力があるし、リソースがある。それを情報、インフラ、歩行者で作ることですごくいいことだと思う。</p>
<p>< 4. その他 ></p>	
<p>特になし</p>	
<p>< 閉会 ></p>	